

**全建賞において5件の賞を受賞
～団地再生、公園整備、復興支援、災害復旧、及び高規格堤防整備での
貢献が評価されました～**

独立行政法人都市再生機構（以下、「UR」）は、令和4年6月28日に発表された「令和3年度全建賞」において、インフラの部および、事業連携の部において合計5件の賞を受賞しました。

「全建賞」は、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられたものです。昭和28年の全建賞創設以来、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や、その時々々の国民ニーズに沿った取り組みに授賞されてきました。令和3年度表彰で69回目となる歴史と伝統のある賞です。

今回の全建賞にノミネートされた団体のうち、インフラの部の3枠（下記参照）全てと事業連携の部で受賞したのはURのみです。

○インフラの部（インフラ整備の事業又は施策の部）4件

一般枠^{※1}：豊四季台団地第IV期 団地再生事業【UR】

：安満遺跡公園（高槻市八丁畷地区防災公園街区整備事業）【大阪府高槻市・UR】

東日本枠^{※2}：福島県大熊町大川原地区復興拠点における総合的な復興まちづくり事業の推進
【福島県大熊町・UR】

災害枠^{※3}：長野県佐久地域における災害復旧工事マネジメント

【長野県佐久建設事務所（公財）長野県建設技術センター・UR】

○事業連携の部（異なる部門の事業が連携した取り組みの部）1件

：多機能インフラの連携による大和川高規格堤防整備事業

【主事業の実施者：国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所

連携先事業の実施者：大阪府堺市・阪神高速道路(株)・UR】

※1：災害復旧・復興以外の事業又は施策 ※2：東日本大震災に係る復旧・復興事業特別枠 ※3：災害復旧・復興事業特別枠 【】内実施機関名



豊四季台団地第IV期



安満遺跡公園



福島県大熊町大川原地区

様々な主体と工夫しながら、魅力ある生活環境が創出されている点、工期短縮による早期事業効果発現、幅広い意見を取り入れた整備構想を策定している点が評価され、受賞に至りました。

今後も、このようなまちづくりのノウハウを活かし、震災復興支援、自然災害からの復旧・復興支援、賃貸住宅や都市の再生事業に全力で取り組んでまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

UR 本社

都市基盤調整室 関連公共施設課

(電話) 045-650-0709

技術・コスト管理部 企画課

(電話) 045-650-0938

広報室 広報課

(電話) 045-650-0887

■全建賞を受賞したURの事業の概要

{ } 内は実施機関名

【豊四季台団地第Ⅳ期 団地再生事業】{UR}

昭和39年度に管理を開始した豊四季台団地において、ストックの良質化等を目的として段階的に推進している団地再生事業（平成15年度～）の第Ⅳ期となるUR賃貸住宅の建替え事業です。

第Ⅳ期では、「SDGs」「生物多様性」「コロナ禍における新たな生活様式」など社会情勢の変化を踏まえつつ、次世代を担う『子供』をターゲットにした環境配慮に係る取り組みをハード・ソフトの両面から重点的に展開し、「多様な世代が生き生きと暮らし続けられるまち（ミクストコミュニティの形成）」を目指した取り組みに発展しています。

屋外空間では、子供たちが身近な生物と触れ合える空間を創出するため、蝶が好む花木を通り沿いに植栽した「蝶のみち」の整備や、子供たちに団地に愛着をもってもらえるように、団地のシンボルのドットモチーフを遊具や塗装面に展開し統一的な外構デザインを形成しました。また、柏市立豊四季保育園児とクロッカスの球根を植えるイベントを実施し、新しい景観を一緒につくることで、新しい世代に向けた団地への愛着づくりと住民との交流促進を図る取り組みを行いました。



<建て替えた団地>

【安満遺跡公園（高槻市八丁畷地区防災公園街区整備事業）】{大阪府高槻市・UR}

高槻市の中心部にある史跡安満遺跡（約2,500年前の弥生時代の環濠集落跡等を含む国宝級の集落遺跡）と京都大学附属農場という歴史・環境資産を活かし、「市民と育てつづける公園」をコンセプトに構想策定及び整備を実施しました。

学識経験者や、市民によるワークショップ等で幅広い意見を取り入れながら整備構想を策定し、防災公園街区整備事業による整備を行う部分と、史跡公園として整備を行う部分が一体となって、広域避難地としての防災機能はもちろん、公園管理事務所及び市民活動拠点であるパークセンターや全天候型の子どもの遊び施設、民間活力を導入したカフェ等



<パークセンターと屋根付き広場>

により人々が集まるための賑わい空間を創出しました。また、公園に隣接して市が建設した「高槻子ども未来館」と合わせて子育て支援の拠点を形成しました。さらに、市民とともに成長し続ける公園として、多様な関係者が協議する場を設立し、時代やニーズに合わせて柔軟に完成度を高められるハーフメイドの公園づくりを通じた、地域の活性化や新たなコミュニティの創出を継続的に推進しています。

【福島県大熊町大川原地区復興拠点における総合的な復興まちづくりの推進】〔福島県大熊町・UR〕

平成 23 年 3 月の東日本大震災および東京電力福島第一原発事故災害が重なり、長期全町避難となった大熊町の大川原地区では、全町避難を経てゼロからのスタートとなる大熊町初の復興拠点とするべく、町役場新庁舎や町営住宅、医療・福祉施設等の建築物整備を実施しました。同時に、帰還町民のための環境整備を重視し、インフラ等の基盤整備をし、基盤整備事業認可から 4 年余りという短期間にほぼ全ての整備を完了しました。



<住宅地内の水路>

特に町役場や町営住宅は、基盤整備着手から約 2 年後の居住制限区域解除直後に開庁、入居開始を実現し、町の復興に大きく寄与しました。住宅地などの整備にあたり、ランドスケープデザインを取入れ、町民が自然に囲まれ、安心して暮らし、豊かなコミュニティを再生できる新しい生活環境を創出しています。

【長野県佐久地域における災害復旧工事マネジメント】〔長野県佐久建設事務所・

(公財)長野県建設技術センター・UR〕

令和元年東日本台風（台風第 19 号）では日降雨量 500mm 超を記録し、長野県佐久地域の千曲川および 40 の支川で甚大な被害を受け、佐久地域における公共土木施設だけでも被害は 684 箇所（令和 2 年 2 月時点）となりました。

佐久地域に点在する農業や林務なども含む全体で 2,000 箇所もの災害復旧箇所を、長野県佐久建設事務所・長野県建設技術センター・UR の 3 者で「災害復旧支援チーム」を組成し、発注機関 16 機関によって、同時かつ複合的に実施される 1,200 件に上る災害復旧工事のマネジメントを実施しました。

マネジメントでは、必要な情報交換、意思疎通や意思決定の場となる 3 会議体を設置し、これを総合的に運営管理し、非常に多くの関係者間で、全体像や災害復旧工事完了までのロードマップや認識を共有し続けることで、資材供給不足や、他機関との調整不足による工事工程の遅延など生じることなく、災害復旧箇所の円滑な推進と迅速な完了に寄与しました。



<災害復旧工事マネジメントを活用した工事の復旧状況>

【多機能インフラの連携による大和川高規格堤防整備事業】

{主事業の実施者：国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所

連携先事業の実施者：大阪府堺市・阪神高速道路(株)・UR}

堺市の大和川左岸地域では、高規格堤防と阪神高速大和川線の整備が進められてきました。

URは、大和川左岸（三宝：さんぼう）地区において国土交通省、堺市、阪神高速道路株式会社と連携を図りながら、高規格堤防整備事業と大和川左岸(三宝)土地区画整理事業との一体整備を行い、安全・安心のまちづくりを推進しています。



<事業区域の断面のイメージ>

■関連リンク

URの東日本大震災の復興支援 (<https://www.ur-net.go.jp/saigai/index.html>)

URが取り組む復旧・復興支援 (<https://www.ur-net.go.jp/re/index.html>)

URが取り組む団地再生事業 (https://www.ur-net.go.jp/chintai_portal/rebuild/index.html)

URが取り組む都市再生事業 (<https://www.ur-net.go.jp/produce/index.html>)

■全建賞とは

全建賞は、一般社団法人全日本建設技術協会が、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられたものです。昭和28年の全建賞創設以来、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や、その時々国民ニーズに沿った幾多の取り組みに授賞がなされてきました。

詳しくは全建HP (<http://www.zenken.com/hypusyou/hyousyou.html#zenkensyou>) をご覧ください。

UR都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>

